

医心 伝心

組織の健全化について

富山県医師会常任理事 長谷川 徹

猛暑と豪雨が列島を襲い、今年も異常気象は留まるどころを知りません。

人命にかかわる自然災害が、あの手この手で人類を脅かし続けています。

昨年に引き続き迷走する台風が発生しており、夏が過ぎても日々の備えをしておこうという心のタガを緩めないよう、心がけたいものです。

昨今、某私立大学アメフト部、某私立医科大学やボクシングの中央組織で、権力者による不祥事のニュースが相次いでいます。あってなきがごときのルールや、意思決定プロセスの不透明さが、特定の者に利する結果を生み、社会から厳しい目が注がれています。

これらの事案に共通することは、これまで、最高権力者のそばにいる一握りの取り巻きが異を唱えることなく迎合してきたのに、正義を唱える他者が勇気をもって告発をしたという構図です。社会的使命を帯びた組織は、大学であろうと協会であろうと、国であろうと、常に意思決定プロセスの透明化を図り、自浄作用を備えておくよう努めるべきでしょう。

日本医師会は今年改選期を迎え、第3次横倉執行部が選挙で選出され、船出しました。私たち地方の会員にとっては遠い雲の上の話のように思いかもしれませんが、ルールにのっとって選挙で選ばれたということは、横倉先生たちの日本の医療を守り、国民の健康に寄与しようとする姿勢を、

私たちの清き一票が県医師会の日本医師会代議員の先生方を通して、承認、称賛した結果であると、改めて感じますし、組織が健全であると誇りにさえ思います。

「多様性を尊重し育む組織作り」は他人事ではありません。医師の働き方改革、女性医師支援、若手医師たちとの意思疎通、地域医療崩壊の食い止め、など、医師会が力を入れている課題は、会員だけでなく広く国民の皆さんと共有し、克服へ向けて取り組むべきことばかりです。

件（くだん）の権力者たちも早く目覚めて、組織の健全化に取り組んでいただきたいものです。

